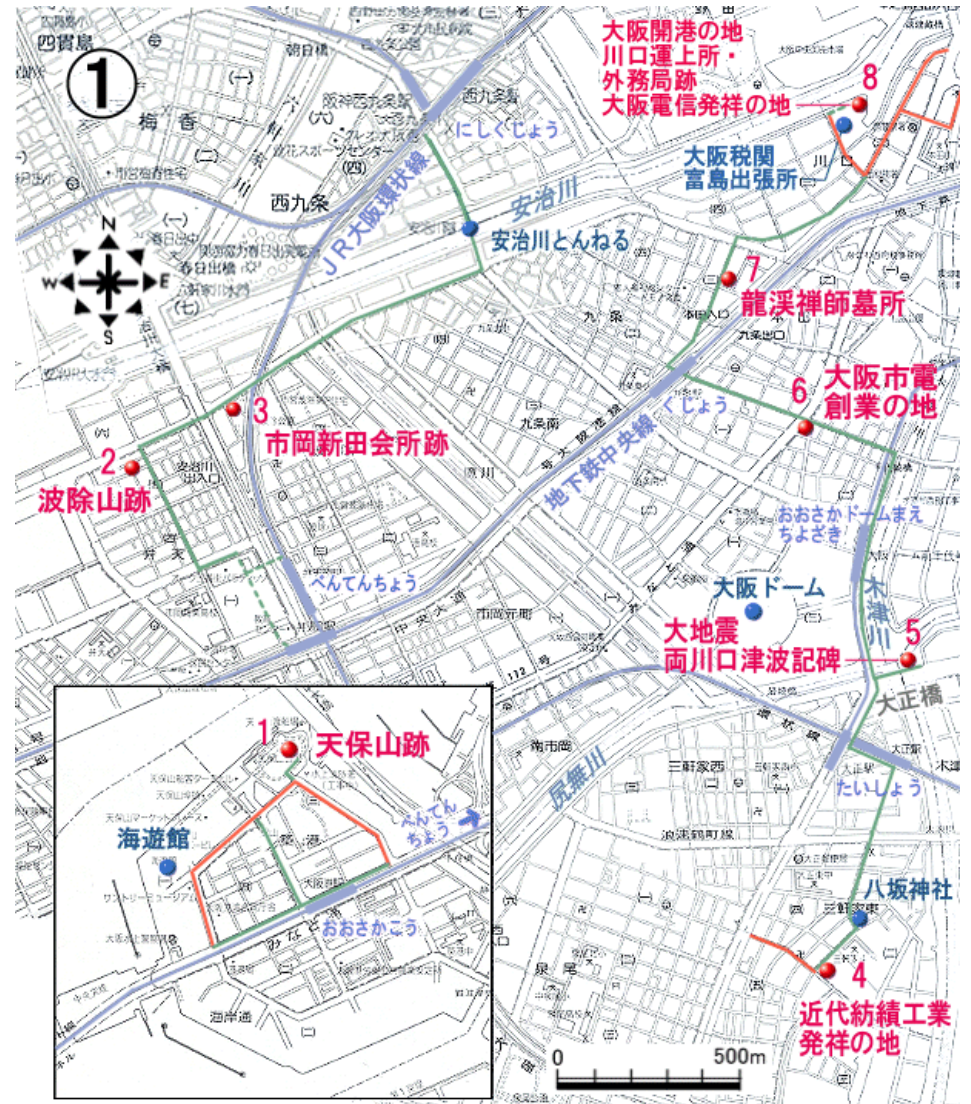


[6] 天王寺区南部

- 71 **生国魂神社** (天王寺区生玉町 13)
- 72 **鯛屋貞柳墓所**: 承応3年(1654)南御堂前の菓子屋に生まれた貞柳は、俳諧師であった父や叔父の影響で早くから狂歌に才能を示した。それまで狂歌は俳諧師の余技に過ぎなかったが、貞柳以降職業的な狂歌師が輩出、太田蜀山人などが出て隆盛を極めたが、貞柳はその源流とされる。
(天王寺区下寺町一丁目3-64、光伝寺)
- 73 **竹田出雲墓所**: 人形浄瑠璃の歴史の中で、太夫の竹本義太夫、作者の近松門左衛門とともに代表的人物として挙げられる竹田出雲は、竹本座の興行に手腕を発揮した。また脚本作家としての才能にも秀で、「仮名手本忠臣蔵」「菅原伝授手習鑑」「義経千本桜」は現在も上演される傑作である。
(天王寺区生玉町 3-19、青蓮寺)
- 74 **上島鬼貫墓所**: 江戸時代の代表的俳人 鬼貫は寛文元年(1661)伊丹の酒道家に生まれた。温厚篤実の人で小西来山と親交があり、また松尾芭蕉を尊敬し、その死の数日前に見舞に駆けつけている。
(天王寺区六万町 2-10、鳳林寺)
- 75 **麻田剛立墓所**: 江戸時代の天文学者で豊後の出身。明和8年(1771)大阪に来て医業に従事する傍ら天文観測に没頭した。望遠鏡や反射鏡などの観測機器の改良に努め、ケプラーの第三法則と同じ法則を独創した。弟子に高橋至時・間長涯・山片蟠桃らがいる。
(天王寺区夕陽丘町 5-3、浄春寺)
- 76 **伝藤原家隆墓**: 新古今和歌集の選者として知られる家隆は、藤原定家と並び称せられる鎌倉時代初期の歌人である。嘉禎2年(1236)この地に庵を結び、日想観を修め往生した。
(天王寺区夕陽丘町 5)
- 77 **勝鬘院一愛染堂** (天王寺区夕陽丘町 5-38)
- 78 **植村文楽軒墓所**: 人形浄瑠璃中興の祖とも言え、「文楽」の名称の元となった文楽軒ではあるが、その詳細はよく分かっていない。
(天王寺区下寺町二丁目2、円成寺)
- 79 **清光院一清水寺** (天王寺区伶人町 5-8)
- 80 **増井の清水**: この辺りは良質の地下水が豊富に湧き出る場所で、「天王寺の七名水」とうたわれる井戸があった。増井はその一つで、元は上下2箇所の井戸があり、上段は侍方、下段は町人方に分けられていたというが、現在では1箇所のみが残っている。
(天王寺区伶人町 5-35)
- 81 **安居神社・真田幸村鞍馬跡碑** (天王寺区逢阪一丁目 3)
- 82 **一心寺** (天王寺区逢阪二丁目 8)
- 83 **旧黒田藩蔵屋敷長屋門**: この長屋門は江戸中期の蔵屋敷の遺構をもつ数少ないものの一つである。元は中之島にあったもので、ビルの建設に伴い大阪市に寄贈され、この場所に移転した。
(天王寺区茶臼山町 1、市立美術館南側)
- 84 **広瀬旭荘墓所**: 文化4年(1807)大分の日田で生まれた旭荘は、はじめ兄の学塾 咸宜園の経営を助けたが、30歳のときに来阪し堺に塾を開いた。詩に優れ、著述に励んだが、死の5日前まで書き綴った日記「日間瑣事備忘」は旭荘と当時を伝える貴重な資料となっている。
(天王寺区茶臼山町 1-31、統国寺)



[2] 西区東部

- 9 **川口居留地跡**：大阪開港とともに設けられた2.6haの外国人居留地は、街路樹や街灯のある舗装道路に面してバンガロー風の洋館が並ぶ西洋風の街であった。
(西区川口一丁目5、本田小学校北西角)
- 10 **川口キリスト教会**：本田小学校の北向いに建つこの教会は大正8年(1919)に改築されたものであるが、居留地の面影を残す建物である。(西区川口一丁目3)
- 11 **大阪市役所江之子島庁舎跡**：明治31年(1898)に最初の大阪市庁舎がここにつくられた。それまでは特例によって府知事が市長を兼ねていたため市独自の庁舎もなかった。
(西区江之子島一丁目9)
- 12 **中天游邸跡**：天游は大阪における蘭学の祖 橋本宗吉の弟子で医者であった。医業のかたわら蘭学塾を開き、弟子の中には緒方洪庵がいた。(西区京町堀二丁目11、江戸堀中公園南東隅)
- 13 **薩摩藩蔵屋敷跡**：薩摩藩はここにあった蔵屋敷を上屋敷と称し、中(江戸堀)、下(立売堀)と合わせて3つの屋敷を持っていた。(西区土佐堀二丁目4-9)
- 14 **頼山陽生誕地**：「日本外史」を著し、幕末の勤皇思想に大きな影響を与えた頼山陽はこの地に生まれた。(西区江戸堀一丁目10)
- 15 **信濃橋洋画研究所跡**：小出栢重・国枝金三・鍋井克之ら大阪出身の画家が中心となって設立した洋画研究所は、多くの専門画家を輩出した。(西区鞆本町一丁目、信濃橋交差点北西角)
- 16 **大阪商業講習所跡**：青年新聞記者 加藤政之助の発案により、鴻池・住友・藤田など豪商の援助を得て明治13年に開校した大阪最初の商業学校。(西区立売堀二丁目2、阿波座南公園南西角)
- 17 **新町九軒桜堤の跡**：京の島原、江戸の吉原とともに近世三大遊里の一つとして栄えた新町。その北辺に位置する九軒町には桜が植えられ、春には夜桜で賑わったという。
(西区新町一丁目10、新町北公園北西隅)
- 18 **初世中村雁治郎生誕地**：近代の上方歌舞伎を代表する名優 初世中村雁治郎は、万延元年(1860)、ここにあった揚屋「扇屋」で生まれた。(西区新町一丁目17-11)
- 19 **間長涯天文観測の地**：江戸中期の町人天文学者で幕府の改暦作業にも参画した長涯は、英国製の観測機器を使い、ここに架かっていた富田屋橋の上で天文観測を行った。
(西区新町二丁目、長堀通中央、遊歩道内)
- 20 **木村兼葎堂邸跡**：酒道家に生まれた兼葎堂は博物学に精通し、オランダ語やラテン語を学び、著作や画もよくした。その邸は、さながら文化人のサロンのようであったという。
(西区北堀江四丁目3、大阪市中央図書館南東角)
- 21 **和光寺一阿弥陀池** (西区北堀江三丁目7)
- 22 **勧進相撲興行の地**：江戸時代、風紀を乱すとして禁止されていた民衆による勧進相撲は元禄の頃から規制が緩和され、大阪では元禄15年(1702、一説には元禄5年)最初の興行がここで行われたという。(西区南堀江二丁目、南堀江公園西側)



- 68 **契沖旧庵(円珠庵)並びに墓**：江戸時代初期の和学者契沖が晩年ここに隠棲、古典の研究に励んだ。代表的著作に「万葉代匠記」がある。
(天王寺区空清町4)
- 69 **岡田米山人・岡田半江墓所**：文化・文政期(1084~30)の大阪では文人画家が活躍したが、その画壇の指導的役割を果たしたのが米穀商を営む米山人で、居宅には木村兼葎堂や頼山陽ら文人墨客が多数出入していた。その子半江も父同様、詩と書画に長じた文化人であった。
(天王寺区餌差町8、良専庵跡)
- 70 **志太野坡墓所**：芭蕉門下十哲の一人 志太野坡は、福井から江戸に出て両替商 越後屋の番頭をしていたが俳諧の道に入り、宝永元年(1704)来阪した。主に西国を行脚し、特に九州では1000人を越す門人を持ったという。
(天王寺区餌差町11、宝国寺)